

第 5 号
(発行日 2012 年 10 月 10 日)

志塾フリースクール

l'avenir

～ ラヴニール通信「ラヴ・ノート」 第5号 ～

∞・∞

活動についてのご報告 (2012 年6月から 2012 年9月)

Voice —不登校を経験した立場として—

伝言板

編集後記

∞・∞

こんにちは、ロコです。

ず〜っと熱かった今年の夏（敢えて誤字です。よく使います）。やっと、空気が乾いて、秋！ ってカンジになってきたかなあ……。合宿で訪れた北海道が、まさしくこんな感じの、暑いんだけど空気が乾いていた「心地よい暑さ」だったので、また、北海道が恋しくなってしまうそうです。これでも現地の人にとっては「猛暑」だったそうで、北海道のイメージが変わってしまったかも、とのことだったのですが……。本州に比べたらかなりマシでしたよお！ 夏だけでも北海道に移住したいわあ、なんて都合のいいこと考えちゃってます……

これまで、ウインドファン（除湿機能付き）や窓を開ける、扇風機などで凌いでいましたが、毎度毎度これではさすがにまいってしまい、「ラヴニールでの活動を、できるだけ快適に」と考えると、エアコンなしの環境というのは、本当に酷な状況でした。

そこで、いただいた助成金を使用して、窓枠はめ型タイプではありますが、エアコンを購入しました。

ボランティアさんに設置をしてもらい、さっそくつけたところ……。涼しい！

あまりの快適さに、それまで我慢を強いていたことを、本当に申し訳なく思いました。



これで快適に……！

活動についてのご報告

○ 日常的に ○

ラヴニールでの日常は、のんびりまったり、という言葉がぴったりでしょうか。

その合間に掃除を少ししたり、本を読んでいたたり、エアコンを取り付けたり、などの各種作業をしたり……。

○ エアコンがついた！ ○

ラヴニールは、南西の角地にあります。そのため、真夏には締め切った部屋の室温が 40℃近くにまで上昇します。

このエアコン、スイッチのオン・オフならばエアコン本体でもできるんですが、温度の設定などは、リモコンがないとできません。

リモコンって、だいたいいつも、「お〜い、どこに行った？」なんて、行方不明になってしまうもの。リモコンの後ろに、恐らく画鋏か何かにひっかける用の何かがついてはいるんだけど、あまり壁に画鋏は刺したくない……。というわけで参加者の子とリモコンを収納しておく用の入れ物を作ったり。



この夏は、どうにか、灼熱地獄からは脱出できそうです。

○ 野球観戦へ ○



今年も恒例、招待を受けて、甲子園にて野球観戦です。この日は、交流戦が終わって、同リーグでの試合が再開した最初のカード(3連戦の2戦目)。台風5号、それから崩れた低気圧などの影響で、お天気が不安ではあったけど、見事に雨は降らず。曇っていたので少々の湿気はあるものの暑くはなりすぎず。湿気にしたって、周りに特に遮るものがないグラウンド。風通しがいいので、言うほど気にはなりませんでした。

というわけで、バッグンの観戦環境☆
試合は、7対3で、見事阪神の勝利でした。

これで、ラヴニールで観戦に行った試合は、2戦2勝！ うん、そろそろ勝ち運が・・・？

(ラヴ・ヴログより一部改訂)

○ その他イベント、会議など ○

不登校・登校拒否を考える夏の 全国大会 2012 in 北海道

毎年恒例行事として参加しているこの合宿、今年は、北海道での開催でした。

北海道は、涼しかったですよお！ そして、広い！ある、北海道内の方が、「大阪に行くほうが近いんだよ」とおっしゃっていて、「？」と思っていると・・・

利用する交通網のちがいこそあれど、その方のご自宅から会場となった札幌・定山溪までは車で4時間、片や大阪～北海道は、新千歳空港～関西国際空港で2時間。

大阪から車で4時間行くと、とっくの昔に大阪なんて通り過ぎ・・・、名古屋も通り過ぎていくぐらいでしょうか？

そうそう、昨年の高知が、途中休憩を入れて車で6時間ぐらいでした。とすると、大阪から瀬戸大橋ぐらい・・・



うん、北海道は広い！

札幌の繁華街から車で40分ぐらい、札幌の奥座敷、とも言われる定山溪温泉が、今回の合宿の舞台でしたここで、講演あり、シンポジウムあり、分科会あり、1泊2日のあいだに、かなり濃密な時間を過ごすわけです。



講演の内容についてはあまり触れないほうがいいのかもしれない、と思っているので、あくまで個人として受けた印象で語りますが…。

あることに対して、わかりやすく噛み砕いた言葉で説明していた印象でした(私が参加した講演の、どの講師とも)。

分科会では、参加した分科会のカラーがそのようなものだったからかもしれませんが、フリースクールとしてどういったことを目標にしているのかとか、スタンスなどを話す機会があり、また、親御さんの立場の人からの要望なども耳にすることができました。

大人メインだと、このように講演とかシンポジウム、分科会が多いのですが、子どもメインだと、外に出たり、室内でも様々な企画が盛りだくさん。今年は、北海道の大自然を活かしたような企画名も、ちらほら…

総勢で、350名ほどの参加だったそうです。(これは大人の数で、子どもも含めると400名近くだったようです)

この合宿、毎年毎年、日本のどこかで場所を変えて開催され、今回が23回目の合宿でした。

さて、来年、24回目の合宿は…？

なんと！ この関西で開催です！

資料によると、関西(大阪)で開催されたのは、1995年、なんですねえ…

このころは、まだ私、こんな合宿があるなんて知らないときです。

次回開催地が決まっていれば、合宿の最後で次回開催地の代表数名があいさつをするんですが、このあいさつと同時に、合宿に向かって、「よ〜いどん！」のスタートのピストルが打ち鳴らされたような気がして、よし！ ここからはひたすら突っ走る！ という意気込みが感じられました。

ラヴニールとしても、協力できることはどんどん協力していけたら、と考えています。

関西での合宿について、またいろいろと、告知していけたら、と思っていますが、とりあえずまだ、何も告知できるようなことがないので…。とりあえず、今回は「北海道の合宿と、次回開催地」についての報告まで。

(2012年7月 ラヴ・ブログより一部改訂)

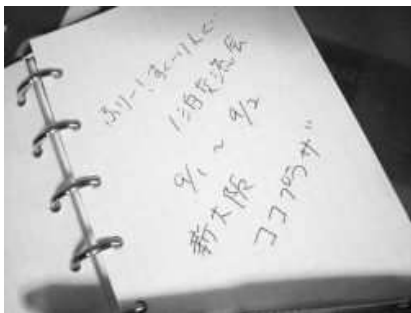
一泊交流会

9月1日(土)、2日(日)に、ふりー！ すくーりんぐ1泊交流会が、新大阪にあるココプラザでありました。

2日間、3つの部屋で5つの時間枠。とにかく分科会、分科会、そして交流会。分科会は14のテーマを設けて、2日とも参加した人ならば最大で5つの分科会に参加できるようになっていました。

各会場で、熱く、濃密に、ごちんまりと、まったり





と、様々な雰囲気の中で議論が交わされたことでしょう。

運営側として、大小さまざまなミス、気づかい・配慮が足りなかった点などがありました。しっかり反省点としてあげて、また、こうしたイベントを開催していきたい、といったところです。

参加形態問わずで数えたところ、総勢 35 名の参加がありました。

こういったイベントを通じていろんな人・団体がつながりあうことで、お互いにとって様々なメリット・デメリットになる情報を共有することで、それぞれが学びあうことで、より一層成長していけるのではないかな、と思います。

また、このようなイベントを考えていきたいところですが、この次については、まだ何も決まっていないそうです。だけに、次には何があるのか、楽しみにしていきたいと思います。

(2012 年9月)

Voice

— 不登校を経験した立場として —

不登校について言われていること、経験してきたこと等、つづっていきます。(無断転載厳禁)

たくさん後悔と、楽しみと、いろいろ ～不登校と「夏合宿」～

もっと早く思い出したかった、と後悔した。

それまでの自分は、「学校に戻ること」が何よりの方法だと思っていた。学校に行かなかった経験をもつ自分だけど、学校にはまた戻らなきゃいけないって思って、学歴だけは、他の人と同じにした。

けれど、その一方で学校に疑問も持ち始めていた。私が学んできたことは何だったの？ それが本当に正しいことだったの？ そして今、自分は正しいことをしているのかな。自分に正直に生きる、が、ウソになっていない？

そんな、よくわからない悶々とした気持ちは、同時に「昔何となく感じた居心地のよさ」を思い出させた。

あのとき居心地のよかった、あの場所。どんな自分でも分け隔てなく関わってもらえた、あの場所。いつか自分も、こういう場所に関わりたいて、おぼろげながら思っていた、あのときの気もち。



大学のパソコンから、フリースクールとかフリースペースをキーワードに探しまくった。

それが、恐らく10年ちょっと前の、秋のことだったと思う。

もっと早く気づきたかった、と後悔した。

大学卒業を間近に控えた、確か2月だっただろうか。ある人の講演が、名古屋であった。

大学の授業で名前を耳にしたことがあった人だし、著書を読んだときに「この人の言うことって何だか自分にスッと入ってくる」と思った覚えがあった。そんな人の講演が、この名古屋である。ぜひ講演を聞いてみたい。



…なんで、もっと早くこの人の講演を聞けなかったんだろう。

どうして、もっと早く「どうしてもイヤなら、学校に行かないという手段を考えてもよかったんだ」と、気づけなかったんだろう。

目からウロコだった。

同時に、自分がこの世界に関わっていきたくて強く決めた、ひとつのきっかけになった。

もっと早く知っていたかった、と後悔した。

講演より少し前、

「夏に、おっきな合宿があるんだけど」

何があるのかよくわからなかったけど、まあ、自分としてこの場所には関わり続けたいし、それなら手伝うのがスジかなと思って、何となく、その合宿とやらを手伝うことにした。

何をやる合宿なのか、実はよく知らないまま。子ども合宿とか、大人合宿とか、それ、何？ 分科会？ フリースペース？ 仮装パーティー？

とにかく、よくわからないまま迎えた「夏合宿」とは、2003年、愛知の蒲郡で開催された「登校拒否を考える夏の全国合宿」のこと。この合宿には、当時の発表や他のスタッフさんが言うに、900名近い参加者があったそうだ。

そんな大きな合宿だとはつゆ知らず、何もわからずにこの合宿にいきなり「実行委員」として関わったことだけが、記憶に残っている。

いや、ちょっとちがう。

そこにいる子どもたちの、走り回る姿。笑った顔。思い思いに遊び、黙々と好きなことをし、時に一人、時に何人かで関わりあう姿。

この子たちの全員が、「不登校」または「不登校を経験した子ども」なのだ。

別に、不登校の子どもに対してうがった見方をしていたわけじゃない。自分もかつて不登校だったのだから、「学校に行けない子って…」と言われることに対して「それはちがうよ！」と言える自信・自信につながるだけの経験はあった。

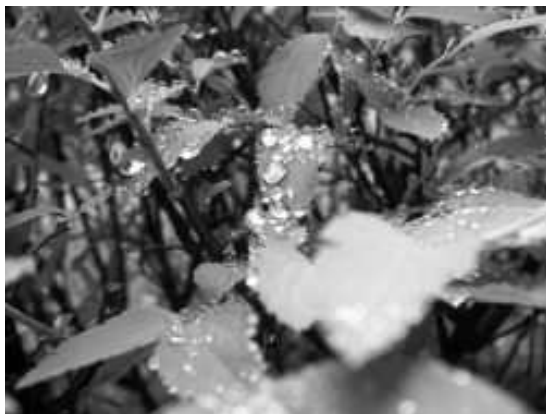
それでも、なあんだ、学校に行かなくて生きていけるんじゃないか。笑っていられるんじゃないか。と、改めて気づいたのが、このときだった。

運営側としては、きっと色々大変だったんだと思う。「思う」と他人行儀なのは、先にも書いたとおり、自分としては、合宿とは何かもわからずいきなり実行委員になったので、何がどうだとうなのか、ということがイマイチよくわかってなかった。

大人は大人で、会場の外でいつまでも話し合っている姿やら、講師の著書を買求める列やら。時々、目に涙を浮かべる人も見かけたけど、「何だかいい感じ？」なような、空気。

よくわからないくせに、それでも、「こんな楽しい場所が・・・」という思いは、どんどん膨らんだ。

この場所で、自分が受け入れられている、という気がした。



これが、私にとって初めての夏合宿に至るまでの経緯。

初めての夏合宿でいきなり実行委員だったので、次年の成田での合宿には、一人の参加者として参加した。

この数年後ぐらいから、旅のおもしろさに目覚めたような気がする。次の合宿開催地が発表になると、名古屋に帰ってすぐ、そこまでのルート調べなきゃ気がすまないぐらいになっていたから。

高速バス、私鉄の特急に、新幹線、飛行機・・・、移動にラクだからといつだったか購入したキャリーケースをゴロゴロと引きながら行った場所は、

北は今年の北海道、南は高知や佐賀にまで至る。合宿のお陰で初めて踏破できた土地というのもあるぐらいだから、「日本全国 47 都道府県踏破」を目標とする私にとっては、合宿様々だったりする。



そんな「楽しい場所」に、再び関われることになりそうだ。

2013年の夏合宿は、関西の地で開催されることになった。

実は私、今年の北海道での合宿で、連続 10 回目の参加だった。そして来年の夏合宿は、私が夏合宿なるものを知ってからちょうど 10 年の節目にあたる。そんな節目のときに再び「参加する側」ではなく「参加してもらおう側」で関われることが、実は何より楽しみなのだ。

あのときこうだったから、という、わからなかったなりの経験と、今度は恐らく痛感するであろう開催側の苦しみと、これから何を企画していこう？という楽しみと。

大変そうなことも、つらそうなことも、もちろん楽しいことはそのまま、すべてを「楽しみ」と感じているぐらいだ(それはそれで怖いと、自分でも思うのだけど・・・)。

もし、自分が中学に行っていて、高校も大学も、すべて憧れとして思い描いたとおりに行けていたのなら、こんな楽しい場所があるって気づけなかった。もちろん、中学に行っていたらそれはそれでちがったんだろうな、という後悔の気もちもあるけど、憧れどおりのままだったら、学校が全てって思い続けたままで、多様性なんて考えられなかつ

たかもしれない。

と思うと、やっぱり、学校に行けなかった時代があつてよかった、って思うんだ。(ロコ)



この、「Voice—不登校を経験した立場として—」では、不定期で、いろんな立場で不登校を経験した方の「生の声」を掲載していく予定です。掲載にあたっては、本人の承諾をいただいた上で掲載をしています。

個人名や年齢などが特定されると編集者が判断した場合、その箇所を編集し、再度本人に確認をとった上で掲載することがあります。他、一部をのぞき、いただいたままの文で掲載をしています。

伝言板

○ 賛助会員・カンパのお願い ○

ラヴニールの活動のため、財政的援助をしていただけると、大変助かります。

ただいま賛助いただいた資金は、ボードゲームなどの子どもと大人が混じって遊ぶものや、クッション、折りたたみ式のテーブルなどの環境を整えるものを購入する資金として、大切にに使わせていただきます。

皆さんからの暖かいお気持ちが、ラヴニールの活動をより充実したものへと発展させるきっかけとなります。

ご支援いただきました場合は、賛助のお礼として通信「ラヴ・ノート」と、イベント情報等を送らせていただきます。

ぜひ、支援をよろしくお願いいたします。

振込み先(郵便振替)

口座番号 00910-1-171298

加入者名 志塾フリースクール「ラヴニール」

それ以外の銀行から

ゆうちょ銀行 店名 ○九九店

預金種目 当座 口座番号 0171298

加入者名 志塾フリースクール「ラヴニール」

一口 3000 円／年 複数口のご応募
大歓迎です

郵便振替の場合、氏名、住所と、費目(賛助会費として、等)、寄付をいただいた方としてこの通信に氏名掲載の可否(氏名の掲載可、イニシャルの掲載可、不可のいずれか)を備考欄に明記のうえ、よろしくお願いいたします。

○ ありがとうございます ○

オセロ、将棋、百人一首をいただきました。

○ 譲ってください! ○

現在希望が出ているのは、次のとおりです。ご家庭にあるもので、現在お使いになられていないものがありましたら、ぜひ、お譲りください。

下記以外にも、フリースクールの活動に役立ちそうなものがありましたら、ご一報ください。

現在希望が出ているもの
ミシン、ボードゲーム、カードゲーム、プレステーション2の本体、ソフト。プレステーションのコントローラ。

…などなど。

他、マンガや教材なども大歓迎です。

○ ブログ・twitterのご紹介 ○

ラヴニールの日ごろの活動の様子や思うことを、ブログではできるだけ写真をつけて、twitterではできるだけリアルタイムで書き綴っております。

ラヴニールに関すること、フリースクール同士の間でのイベント、ネットワークのこと、会議のことなども、少々ながら掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

ひとつ

暑いイヤ～！ 今年は恐らくこれまで生きてきて初めての「食欲減退」を体験しました(いや、火のそばに立ちたくなくて簡単なものに走っただけです)。なのに体重は減らず、落ちたのは体力と疲労回復力のみ。食欲の秋がコワイ…(ロコ)

この年になって遊戯王を始めました。ルールを覚えるのに悪戦苦闘です。これが使えるかなと思って、使ってみたら、これは使えませんと言われ、悔しい思いをしています。そんな初心者でも運がよければ勝てる時もあるので、とても楽しいです。色々な人に教えてもらって、強くなりたいですね。(ボラ M)



編集後記

お盆休みを利用して実家に帰省した際に、いろいろ掘り出し物を発掘しました。伝言板の「ありがとうございます」にある「百人一首」は、そのひとつです。実家ではもう誰も使わないから、何らかの形で処分をする…、とのことだったので、それならうちで使う！ という思いから回収してきました。

兄弟でよく遊んだモンです。といっても本来の百人一首としてではなく、読み札(絵柄の入っているほう)を使った「坊主めぐり」で。これなら年齢関係なく遊べたし、年の離れた兄弟にはちょっとハンデなんかもあったり。「坊主めぐり」ではなく「ぼーぼーちゃん」とか「おじいちゃんめぐり」なんて言って遊んだっけ(おじいちゃん、ごめんなさい！)。



百人一首に初めて触れたのが、小学校4年のときだったと記憶しています。冬休みに、結構必死になって覚えたなあ…。恐らくこの百人一首もそのときに買ってもらったものだと思うのですが、私

は、確か僧正遍照だったでしょうか、の句がロマンチックで好きです(今でも。きっと当時の担任の先生の解説が上手だったからかと・・・)。

なんて、通信編集とは何の関係もない思い出話になってしまいましたね(汗)。

次回通信は2月の予定ですが、恐らくその2月には、日本フリースクール大会があります(以前通信の記事にしたこともありました)。その都合によっては、若干早まったりする可能性もあります。

志塾フリースクール「ラヴニール」

対象年齢 6歳から18歳
(高卒資格コースのみ20歳まで)

活動時間 月曜から金曜の10時から17時
ただし、水曜のみ15時まで
原則土・日、祝日、年末年始
お盆前後はお休みです
(変更の可能性あり)

入会説明 月に1度土曜日に合同説明会、他、随時行っております
体験入会期間(2週間)は無料でご利用いただけます

代表 林 裕子

スタッフ 常勤1名、他非常勤数名

住所 544-0023

連絡先 大阪市生野区林寺2-25-24
JR大阪環状線寺田町駅
関西本線東部市場前駅、
ともに徒歩12分
他、あべの橋方面よりバスあり

Tel/fax 06(6776)2629
(活動時間外は留守番電話)

e-mail lavenir@view.ocn.ne.jp

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~lavenir/>

twitter <http://twitter.com/#!/lavenir65>

ラヴニール通信「ラヴ・ノート」

発行日 : 2012年10月10日

発行者 : 志塾フリースクール「ラヴニール」

発行人・編集: 林 裕子

この「ラヴニール通信『ラヴ・ノート』」は、
公益財団法人「俱進会」の助成金を使用し、
印刷・発行しています。
